

春告草

第56号 平成29年4月12日 進路指導部発行

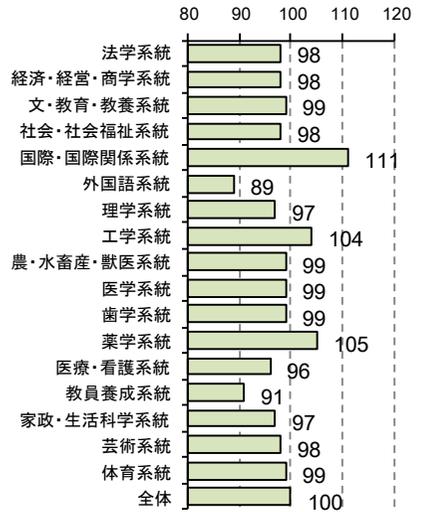
2017年度大学入試を振り返る (1回目 国公立大)

文縮理拡 好調な就職事情を背景とする文系学部の人気復活を意味する「文高理低」が最近の入試事情だが、この「文縮理拡」は「文系縮小、理系拡大」のこと。国立大学の改組によって、人文・社会科学系学部の縮小や教員養成系学部の「0免課程(教員免許を卒業要件としない課程)」の廃止・縮小で文系学部の定員が削減されたのに対して、理工・農学系学部では文理融合型や理系学部の増設で定員が増加したことを表す。文系希望者は増えたのにこれを受け入れる国立大学の入学枠は減ってしまった「ねじれ現象」の影響で、国立大文系志望者は公立大への志望変更や私大文系学部への併願を増やした様子が伺える。

推薦・AO枠拡大 東北大、大阪大など、一般入試の募集枠を縮小し、推薦・AO入試の募集枠拡大を行った大学が目立った。大阪大「世界適塾入試」導入による後期募集停止をはじめ、特に後期試験の志願者減に影響した。大阪大法学部の後期募集停止による他大学への「玉突き現象」を右図に示した。来年度入試では一橋大の推薦入試導入で法学部、社会学部の後期募集が停止される。東大後期に加え、一橋大後期の募集停止でトップ層がどこへ流れるのかは、今後の動静に注目したい。

国語ショック 2017年度のセンター試験は数学Ⅰ・A、数学Ⅱ・B、生物基礎、英語筆記などで平均点がアップがした一方、国語が大幅ダウンした影響が大きく、全体としては得点が伸び悩んだ。国語の難化は、文系・理系ともに影響したが、特に理系に強くダメージを与えた。さらに理系志望者は化学の難化もあり、ダブルでダメージを受けた感が強い。これに対して文系志望者は、国語は理系志望者ほど大きく失点はせず、易化した数学Ⅰ・A、数学Ⅱ・B、生物基礎、英語筆記で十分にカバーできた。このため、文系は初志貫徹の出願、理系は安全志向からやや弱気な出願へとつながった。中でも募集人員が少なく、実施学部・学科の減っている後期では、ボーダー付近の学力層が「国立→公立」へ出願先を変更する他、出願自体をあきらめ、私立大一般入試の併願を増やしたものと思われる。国立大に比べ、国語が不必要、理科1科目受験が可能な大学が多いことも公立大人気アップへとつながった。センターで国語必須ではない理系学部では、山口大一工(前期)が31%増、大阪市立大一理(後期)が63%増、北九州市立大一国際環境工(後期)が97%増など、志願者が集中するケースが見られた。

国公立大入試 学部系統別志願状況



2016年度志願者を100とした指数

大阪大後期募集停止の影響



センター試験国語平均点推移



平均点が100点を切った2014年度に比べれば、まだ8点ほど高いが、15年、16年度と続けて易化した後だけに受験生にとっては厳しい結果となった。グラフからも分かるように、難易を繰り返すので、難しかった年に合わせて準備することが必要である。

センター試験平均点

大学入試センターでは、小数点以下第2位までを発表しているが、ここでは第1位までを表示した。
国語、英語は200点満点、理科①、の各科目と英語リスニングは50点である。

教科・科目		2016年度	2017年度	差
国語	国語	129.4	107.0	-22.4
地理歴史	世界史B	67.3	65.4	-1.9
	日本史B	65.6	59.3	-6.3
	地理B	60.1	62.3	+2.2
公民	現代社会	54.5	57.4	+2.9
	倫理	51.8	54.7	+2.9
	政治・経済	60.0	63.0	+3.0
	倫理、政経	60.5	66.6	+6.1
数学①	数Ⅰ・数A	55.3	61.1	+5.8
数学②	数Ⅱ・数B	47.9	52.1	+4.2

教科・科目		2016年度	2017年度	差
理科①	物理基礎	34.4	29.7	-4.7
	化学基礎	26.8	28.6	+1.8
	生物基礎	27.6	39.5	+11.9
	地学基礎	33.9	32.5	-1.4
理科②	物理	61.7	62.9	+1.2
	化学	54.5	51.9	-2.6
	生物	63.6	69.0	+5.4
	地学	38.6	53.8	+25.2
外国語	英語筆記	112.4	123.7	+11.3
	英語リスニング	30.8	28.1	-2.7

6年生よ、この模試で『受験生』になるのだ！

スタート時での入試対応力を確認し、課題を自覚する

6年生1回目の記述模試が行なわれます。今年度校内で実施する模試日程は下に示したとおりですが、今回の模試は主に、4年、5年生の学習範囲の総まとめにあたる内容で、受験勉強の土台となる基礎学力を確認する目的で行います。しっかりと準備し、受験して「自分の弱点がどこにあるか」を探り、今後の受験勉強計画に役立てることが大切です。

またこれからは、1回1回の模試が入試の予行演習にもなります。その都度、具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みましょう。志望校の入試情報を調べ、対策を立て、その計画を実行して模試に臨むようにすれば、学習効果、模試効果も大きいと思います。わずかな点差が合否を分ける入試ですから、本番を想定して1点も無駄にしないことを意識して模試を受験してください。

志望校判定は8校

志望校判定はこれまで4校まででしたが、今回からは8校まで記入できるようになります。さらに、国公立大前期日程、後期日程などの日程や、個別入試、全学部入試、センター利用入試などの方式までを含めた「募集単位」で記入することになります。同じ学部・学科でも、日程・入試方式によって科目・配点が変わる（※）こともあるので注意しましょう。

（※この為、同じ科目でも判定が異なるケースもあります。）

空き時間は自習室などで勉強！

模試受験であっても、平常通りの登校です。試験時程は下の通りですので、間違いのないように受験してください。空いた時間は、空き教室や自習室、図書室、会議室などでいつも通りの勉強をしましょう。生活のリズムを崩さないこと、マイペースで勉強を進めることも大切な「受験力」です。

模試時程（予定 決定版は直前に案内します）

4月24日（月）		4月25日（火）	
数学X（文系）	10:40～12:20	理科①	8:30～9:30
数学Y（理系）	10:40～12:40	理科②	9:45～10:45
地歴・公民①	13:20～14:20	英語	11:00～12:30
カード記入	14:20～14:40	国語	13:20～14:50
地歴・公民②	14:50～15:50		



入試本番を想定して受験しよう！

- 試験開始直後、問題に一通り目を通し、時間配分を考えているか？
- 時間配分は、見直しの時間を含めて設定しているか？
- 「確実に解ける問題」「配点が高い問題」など、優先的に解くべき問題を意識して解いているか？

明治大学文学部英米文学科、農学部農芸化学科の例

文学／英米文学		3318-01-1001
◇文学／英米文学 - 全学部		3318-01-1002
△文学／英米文学 - 前期3	セ	3318-01-1071
△文学／英米文学 - 前期5	セ	3318-01-1072
農芸化		3318-72-0301
◇農芸化 - 全学部		3318-72-0302
△農芸化 - 前期	セ	3318-72-0332

英米文学科では4つの入試方式（個別入試、全学部入試、センター利用試験3教科型、センター利用試験5教科型）、農芸化学科では3つの入試方式（個別入試、全学部入試、センター利用入試）がある。最初の4桁が大学コード、次の2桁が学部コード、次の2桁が学科コードで最後の2桁が日程・方式を表している。

今年度の模試実施予定
（6年生・校内実施分）

- 4/12 受験学力測定テスト（河合塾）
- 4/24,25 総合学力記述模試（進研模試）
- 6/6,7 総合学力マーク模試（進研模試）
- 7/7,8 総合学力記述模試（進研模試）
- 9/20,21 ベネッセ・駿台マーク模試
- 10/17,18 ベネッセ・駿台記述模試
- 11/6,7 ベネッセ・駿台マーク模試

大学入試の基礎知識（2）



国公立大も推薦・AO入試の募集枠が増え、本校からも合格者が出ている。私立大も含め大学への入学方法を調べてみよう。

ROAD to THE UNIVERSITY

大学へ入学する方法を調べよう

国公立大学へ入学する為には一般入試の「センター試験受験＋個別試験受験」が主流であるが、推薦入試、AO入試というルートもある。

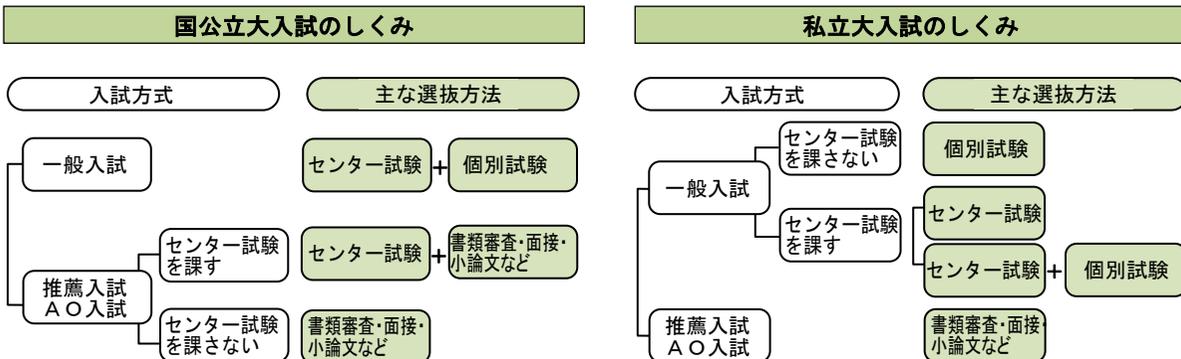
昨年度入試では東京大学の推薦入試、京都大学の特色入試が始まり、今年度入試ではお茶の水女子大学で新フンボルト入試が始まった。それぞれの推薦入試、AO入試に本校から合格者が出ていることは、昨年度の「春告草」(※)でお知らせした通りである。さらに来年度入試では、一橋大学が商学部で行っていた推薦入試を全学部に拡大して実施する。推薦・AOとは言え、「狭き門」であることは間違いないが、推薦入試、AO入試について調べておくことは無意味なことではないだろう。今回は、私大も含めて大学入学の方法（ルート）を学習しよう。

(※昨年度以前の春告草は本校ホームページにPDF版を掲載してあります。ただし、一部非公開の内容が含まれています。)

大学入試の基本的な仕組みは？

大学の入学試験は、基本的には各大学・学部が個別に実施し、選抜方法もそれぞれ独自のやり方で行っている。学科試験による「一般入試」、面接や小論文などで選考する「推薦入試」、「AO入試」の3つが主な選抜方法だが、メインは一般入試であり、募集人数も多く、学力勝負の選抜が行われている。

国公立大および私立大の入試方法・主な入試方法・基本イメージ



■一般入試について

国公立大の「一般入試」は、センター試験が必須で、センター試験の得点と個別試験の得点を合わせて選抜される。一方、私立大については、センター試験は必須ではないが、センター試験の成績だけで合否が決まるセンター利用方式やセンター試験の成績と個別試験の成績で合否を決定する併用方式も行われている。このため、本校生徒の殆どの生徒はセンター試験を受験している。

- ・国公立大の個別試験…「前期」、「後期」に分けて行う。公立大学はこれに加えて「公立大学中期日程」が行われる。公立大を含めれば、最大で3校まで受験できる。センター試験と個別試験との得点配分や受験に必要な教科・科目については大学・学部・学科により様々である。
 - ・私立大の一般入試…何校も受験できる。3教科受験が主流であるが、2教科のところもある。センター試験を使わない「一般方式」とセンター試験の成績を合否判定に用いる「センター利用方式」の2つの方式がある。
 - ・最近のトレンドは、英語の個別試験に代えて、外部検定試験(英検、TEAPなど)を利用する試験方式の増加がある。
- その他詳細は、進路指針を参照してください。(今年度版は4月下旬に発行予定)

■推薦入試・AO入試について

ア 公募制推薦入試

大学が特定の高校を指定する入試（指定校推薦）とは異なり、広く推薦を受け付ける入試。学部・学科・評定平均値など大学が指定した基準を満たし、校長の推薦があれば誰でも出願できる。選抜方法は、国公立大学ではセンター試験を課すものと課さないものがある。私立大学では「書類審査・面接・小論文」で選抜することが多い。浪人生の出願や他大学との併願が可能な大学もある。重要なのは調査書の評定平均値で、国公立大学では4.0以上、私立大学では3.5以上が推薦基準のおおよその目安となる。

公募制では、個性的な学生を獲得するために、ユニーク推薦を行う大学がある。一芸一能入試・自己推薦・有資格者推薦・スポーツ推薦などがその代表的なものである。

※東京都内で推薦入試を実施している国公立大学 お茶の水女子大、電気通信大、東京医科歯科大、東京海洋大、東京外国語大、東京学芸大、東京工業大、東京大、東京農工大、一橋大、首都大学東京
(実施している学部・学科名は省略した。出願資格が制限されている大学もあるので、詳細は各自で調べること。)

イ AO入試

AOとは、アドミッション・オフィス（入学者選抜を含め入学業務全般を担当する部署）の略で、大学の掲げる“アドミッション・ポリシー（求める学生像）”と合致する学生を大学側が早めに確保する入試システム。私立大学を中心に、最近では国公立大学でも広がっている。学力試験だけでなく、面接・小論文や書類審査、自己PRなどで、受験生の個性や適性、意欲など総合的な人物評価して選抜を行う。最近では学科試験を課す学校も出てきており、この傾向はさらに強まると思われる。

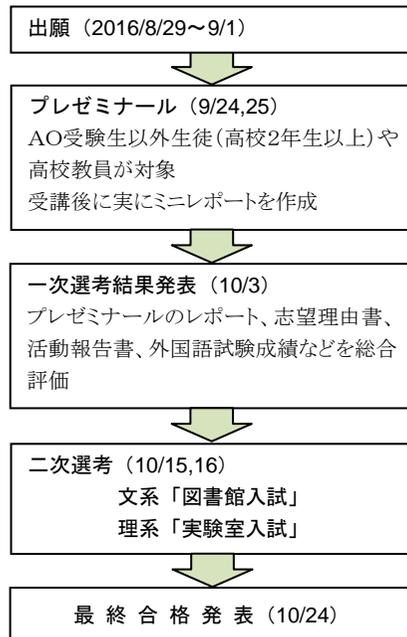
今年度入試から始まったお茶の水女子大「新フンボルト入試」は、一次選考ではプレゼминаールで講義理解力テストを行い、二次選考では文系学科で「図書館入試」、理系学科では「実験室入試」という、自ら課題を発見して能動的に学ぶ「アクティブラーニング」の力を問う試験を組み合わせたAO入試だ。

時間をかけて選抜するため、出願は8月から始まる。一般入試の勉強との兼ね合いが難しいという意見もあるが、第一志望校であれば受験のチャンスを広げる意味で、検討してみる価値はある。

出願前には、担任、進路部の先生によく相談してください。

※東京都内でAO入試を実施している国公立大
お茶の水女子大、電気通信大、東京海洋大、東京学芸大、東京農工大、首都大学東京（実施している学部、学科名は省略。詳細は各大学HPなどで確認すること）

お茶の水女子大学新フンボルト入試の選考方法



※平成29年度入試の概略を示した
最終合格者はセンター試験受験が必要

平成29年度 首都大学東京 ゼミナール生（平成30年度ゼミナール入試用）の募集について

実施学部 都市教養学部 生命科学コース

都市環境学部 地理環境コース

募集対象・人数、ゼミナール入試への出願など

■生命科学コース 高校2年、3年相当学年生徒・約100名

前期ゼミナール（講義）、サマーセッション（実験）を経て、翌年3月の高等学校等卒業見込者対象に後期ゼミナール（演習）を行う。後期ゼミナール対象数は約20名だが、ゼミナール入試募集数は14名 面接10月13日 合格発表10月21日（昨年）

■地理環境コース 高校3年相当生徒で英語、数学の評定平均値が3.5以上の者・約20名

ゼミナールは5回実施 ゼミナール修了者はゼミナール入試へ出願できる。

ゼミナール入試募集数は4名 面接9月8日 合格発表9月8日（昨年）

募集期間 平成29年4月1日～4月30日（郵送受付 消印有効）

※詳細は大学ホームページを参照のこと <http://www.tmu.ac.jp/entrance/faculty/outline/ao.html>

出願締切り
今月末に迫る